資料３

令和7年度
聴覚障がい児支援中核機能
事業の取組について

神奈川県障害福祉課

聴覚障がい児支援中核機能事業の構成

１　聴覚障がい児に対応する協議会の設置
２　聴覚障がい児支援の関係機関との連携
３　家族支援の実施
４　巡回支援の実施
５　聴覚障がい児の支援方法に係る研修の実施

1 聴覚障がい児に対する協議会の設置

聴覚障がい児及びその家族に対し、早期から必要な支援を切れ目なく提供できるよう、各分野の関係機関等が連携した支援体制を整備し、早期支援を推進するため、「神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備推進協議会」を設置している。

【令和7年度の開催状況】

第1回（7月30日開催）　議題：令和7年度聴覚障がい児支援中核機能事業の実施計画について

第2回（3月26日開催）　議題：令和7年度聴覚障がい児支援中核機能事業の取組について

２　聴覚障がい児支援の関係機関との連携

医療・保健・福祉と切れ目なく連携しつつ、既存機関との連携を強化し、聴覚障がい児の乳児からの対応を強化する。

（１）市町村

（２）医療機関

（３）ろう学校



（1） 市町村

療育・障害福祉・母子保健担当部署に連絡をして、中核機能の事業の紹介などを行った。

また、課題等についても情報交換し、顔の見える関係づくりを目指して訪問した。

[訪問実績]
・逗子市、鎌倉市、横須賀市、小田原市、三浦市、
山北町、厚木市、綾瀬市、松田町、大井町、寒川町 等

県内30市町村を訪問した

（1） 市町村

県・政令市・中核市で情報交換会を実施し、５県市の聴覚障がい児支援の体制の把握、情報共有をした。

各市で支援の流れや関係機関の連携の仕組みが確立されていた。

11月12日　行政のみ情報交換会（参加：県・政令市・中核市）
２月５日　行政及び受託先の情報交換会（参加：県・政令市）

◆主な支援実施機関

【横浜市】
中核機能：横浜市総合リハビリテーションセンター
ほっぷ新横浜（児童発達支援事業所）
８箇所の地域療育センター

【川崎市】
中核機能：川崎市中央療育センター
３箇所の地域療育センター

【相模原市】
３区の子育て支援センター
陽光園（相模原市立療育センター）

【横須賀市】
横須賀市療育相談センター
横須賀市立ろう学校

（2） 医療機関

子どもの診断や支援に関わってる県内の代表的な病院へ訪問した。

【訪問先】

◆精密検査実施医療機関

小田原市立病院、県立こども医療センター
横浜市立大学付属病院、関東労災病院
東海大学病院、聖マリアンナ医科大学病院　計6機関

◆2次検査機関

厚木市立病院　　1機関

◆新生児聴覚スクリーニング検査実施機関　計15機関

（3） ろう学校

各学校の教職員の異動もあるため、新年度の挨拶、情報交換を行った。

[訪問実績]
・県立平塚ろう学校
・横須賀市立ろう学校
・県立相模原中央支援学校

◇平塚ろう学校の教諭に家族教室や横須賀市立ろう学校の教諭に研修会の講師を担当してもらった
◇在籍する聴覚障がい児のケースの紹介

３　家族支援の実施

　保護者に対する相談、補聴器等の情報提供、家族教室による支援を行う。

（１）相談支援
（２）家族教室



（1） 相談支援

聴覚障がい児の家族を対象とした療育や日常生活等の相談、補聴器を活用できる社会資源等の情報提供や他の支援機関への繋ぎ等を行った。

【実績】
相談件数（延べ）：634件

【新規相談者経路】

紹介元	人数（人）
耳鼻科	9
市町村療育	13
市町村母子保健	11
児童発達支援センター	2
児童発達支援事業所	1
ろう学校	1
その他	6
合計	**43**

（2） 家族教室①

聴覚障がい児や家族同士が交流する場として交流テーマを決めて家族教室を開催した。
令和7年度は、毎月2回程度実施。

●8月2日（土） テーマ：聴覚障がい当事者の話を聞こう～デフリンピックを知ろう～
会場：県立相模原中央支援学校　5家族18名（聴覚障がい児5名）参加

●11月19日（水）テーマ:おしゃべり広場　やきいもパーティー
会場：聴覚障害者福祉センター　2家族4名（聴覚障がい児2名）参加

●1月17日（土） テーマ：難聴の大学生の話をきこう！
会場：あつぎ市民交流プラザ　7家族23名（聴覚障がい児7名）参加

（2） 家族教室②

「つたえるつたわる楽しいやり取り」を開催。
…家庭で使用できる手話をろう講師からより個別に学ぶ家族教室を月に1回程度実施した。
特にニーズの高い地域（小田原・厚木）で開催。

●5月13日（火）
会場：おだわら市民交流センター　2家族4名（聴覚障がい児2名）参加

●8月26日（火）
会場：プロミティあつぎ　2家族5名（聴覚障がい児2名）参加

●12月9日（火）
会場：おだわら市民交流センター　3家族7名（聴覚障がい児3名）参加

家族教室参加者の声

- 普段話すことができない難聴の子を育てているお母さん、お父さんとお話ができて良かった
- 現役大学生である難聴の方から、大学での話や生い立ちについて聞くことができて参考になった
- ろう学校や通常学級の話を聞けて良かった
- 聴覚障がい当事者の講師の生い立ちや前向きな姿勢に触れ、勇気づけられた

４　巡回相談の実施

　地域の児童発達支援センター、保育所等を巡回し、職員に対して支援を行う。

（１）児童発達支援センター、児童発達支援事業所
（２）保育所、幼稚園



（1）児童発達支援センター、児童発達支援事業所

17か所の児童発達支援センター、
7か所の児童発達支援事業所の巡回を行った。

○県域の児童発達支援センターを順次訪問

⇒聴覚障がい児が通園している児童発達支援センターはそれほど多くないが、聴覚障害者福祉センターとのネットワークができつつある

○児童発達支援事業所（厚木と平塚）の連絡会で中核機能事業の周知を実施

⇒職員研修の参加にもつながった



（2） 保育所、幼稚園

保育所等からの要望で巡回相談を実施し、聴覚障がい児支援のコミュニケーション支援や保護者の気持ちの受け止めなどについて必要な相談支援を行った。

[訪問実績]
１０か所（藤沢市、鎌倉市、平塚市、小田原市他）

巡回支援の例①

◆保育園

（園の先生）

- 補聴器を装用している児童で一斉指示が通らない場合がある
- お友達とのやりとりで気を付けることは



（センター）

✓ 先生に難聴体験や補聴器の試聴をしていただいた
✓ 補聴器を装用していても、理解が曖昧な場合がある
✓ 顔を見て、身振りを使って丁寧に説明するよう、どの先生にもお願いしてほしい
✓ お友達とのやりとりはまず見守り、お互いが戸惑っていたら、先生が間に入って「もう一回言ってみて」と促すといい

巡回支援の例②

◆児童発達支援事業所

（施設職員）

- 声掛けや絵カードでのやりとりは難しい
- 実物を見せる方がやり取りが上手くいく

（センター）

✓ 日常生活で使える簡単な手話を使ってみてはどうか

✓ この園にくると楽しいと思えるような環境を作っていくのがいいと思う

５　聴覚障がい児の支援方法に係る研修の実施

乳幼児が通う施設（保育所、幼稚園、児童発達支援センター等）の職員を対象として、聴覚障がい乳幼児の早期発見・療育の必要性、接し方等に関する研修会を実施する。年度内に5回実施。

●第１回：６月12日　　参集・オンライン併用
　会場：聴覚障害者福祉センター
　講演「聴覚障がいの基礎知識」
　講師：原　由紀 氏（北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻　教授）
　参加者：30名（参集３名・オンライン27名）



５　聴覚障がい児の支援方法に係る研修の実施

●第２回：８月７日　　参集　　※難聴児が在籍する施設向けの研修
　会場：聴覚障害者福祉センター
　講演「きこえない・きこえにくい子が安心して過ごせるように～難聴体験を通して考える～」
　講師：渡邉　恵氏（言語聴覚士、東京都立大塚ろう学校早期相談指導員
　　東京都立立川学園早期相談指導員）
　参加者：24名

●第３回：10月７日　　参集・オンライン・オンデマンド（事後配信）併用
　会場：聴覚障害者福祉センター
　講演「きこえにくい子お子さんへのより良い支援について」
　講師：野田　学氏（横須賀市立ろう学校　乳幼児相談担当教諭）
　参加者：55名（参集３名・オンライン13名・オンデマンド39名）

５　聴覚障がい児の支援方法に係る研修の実施

●第４回：12月11日　　参集・オンライン・オンデマンド（事後配信）併用
会場：聴覚障害者福祉センター
講演「きこえにくい子と向き合ってきた３年間」
講師：小川　優花　氏　（学校法人鎌倉みどりこども園　保育教諭）
参加者：31名（オンライン６名・オンデマンド25名）

●第５回：２月26日　　参集・オンライン・オンデマンド（事後配信）併用
会場：聴覚障害者福祉センター
講演「きこえない子の明るい未来に向けて」
講師：菅原　仙子氏（都立ろう学校早期教育相談指導員、言語聴覚士、
東京都難聴児相談支援センター）
参加者：39名（参集４名・オンライン５名・オンデマンド30名）

研修受講者の声

- 集団行動についていけなく、１人で行動をしている場合、「聞こえていないかも？」という視点を持って支援をすることが大事であると学べた。

- 難聴疑似体験をして、子どもたちが難しいと感じていること、こうすれば分かりやすいと思うことなど実感できた。日々の保育で実践したい。

